うひはたぶみ（初機踏）

H.A.M.A.木綿庵だより
第４２号
2020（令和2）年6月26日
（編集発行 梅田正之 090-5042-7775）

破天荒の創見を　　— 収穫時の綿木、矮短の理由 —

綿の木に蝶が生じはじめました。蝶とは綿の花の蕾のことで、苞（ほう）とも言います。播種日は5月2日。6月20日過ぎの時点で綿木の丈はおおよそ50～60㎝。尺貫法では約2尺になります。

ところで、『綿圃要務』（天保4年、1833刊）の中で、かねてから不思議に感じていたのは収穫の様子です。「綿を摘む図」に描かれている綿木は、人の膝くらいの高さしかないのです。木綿庵の畑では約150㎝、5尺以上で収穫しています。その謎を解く鍵が、『日本棉作要説』（大正8年、1919刊）にありました。少し長くなりますが、たいへん興味深い内容ですので、以下に原文をそのまま引用させていただきます。

「畿内棉作者の一般に唱ふる所の信条は『木を作るより綿を作れ』といへる一語に帰着せるが如し。蓋し枝条はいかに美事に附きても、木のみ余り長く伸び過ぐる時は、勢力は木に集まりて肝腎なる桃（実）の付き方甚だ少なきを以て、棉の生長を抑制して桃を多く結ばしむるの工夫を必要とすべしとの意なり。故に巧者なる棉作者はよく此呼吸を呑み込み、枝に勢を与へすぎず、さりとて樹も或る程度までは、其発育を遂げしめざれば、衰弱を免かれざるを以て、此間の調節を考がへ、敵は本能寺にあることを忘れざるを以て、棉作の上乗とせり、今も猶此格言は金科玉条として棉作者間に遵守せられ、其結果棉樹は、益々矮短にして高さ一尺二三寸より四五寸を限りとし、其二尺以上に及ぶもの稀にして、就中『チンコ』『地摺り』など称する一種の如き、地表を離るゝ尺に満たざるものをも歓迎するに至れり。従来棉作が未だ其適度を得ず、或は肥料を多量に施し、或は屡々中耕をなし肥料を加へて徒長に失敗せしより、此説は提唱せられしものにして、また其時代に必要なる標的たりしならんも、爾来此範囲の外、更に一歩も出でずして、父祖伝来の旧套を固守し、毫も改良を加へざるは、棉作上遺憾なき能はず、而して世の棉作を論ずるもの皆此原則に対して、何等異議を挾むものなきが如し。然るに独り佐藤信淵翁は、信州高作り式の収穫多くして尋常棉作と全然相異なる事を説かれぬ。

吾人おもふに、我棉作が余りに樹勢の徒長を恐れて矮短を主張せる結果、収穫過少の欠陥を招きたるかの嫌ひなきにあらず、もし信州式に倣い、砂地よりも壌土若くは他の土に試み肥料の加減と摘心法等の工夫により、枝条を相当に暢長せしめ、然る後又之に抑制を加へて桃を多く結ばしむるの方に利導し、従つて早く成熟を促がし、品位を進め収量を増さしむるの目的を達するに於ては、茲に始めて棉作革新期を見るべく、而して従来の矮短にのみ作り来れる方法は、不経済幼稚時代の旧式たるを自覚するの時なきを保せざるべし。是しかしながら全く空想と認むべからず。乃ち我現在の棉作は百年前に比すれば驚くべきの進歩ならんも、未だ改良の高度に達したるものとは信ずる能はず。従つて改良の余地多々あるべきは、事実の示す所なり。専門の人若くは棉作により一生面を開かむと欲するものは宜しく此に着眼し、破天荒の創見をなすべきなり。」（345～347頁）

佐藤信淵（1769-1850）は出羽出身。宮崎安貞・大蔵永常と並んで江戸時代の三大農学者とされる一人です。卓見です。

綿を摘む図（『綿圃要務』より）

Monthly Data

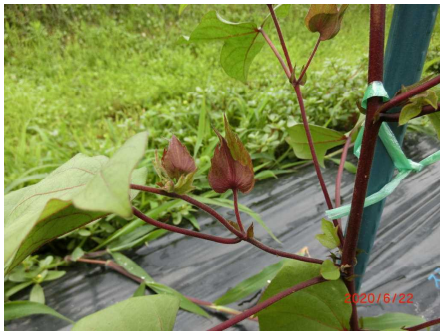
【天理やまのべ木綿庵】（問い合わせ件数 令和2年5月24日～令和2年6月23日）
大阪府１、岡山県１、山口県１、沖縄県１
【H.A.M.A.木綿庵】（令和2年5月24日～令和2年6月23日）
メールを含む各種相談件数４、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数０件

《綿の栽培記録 2020》－ 令和2年度版　その5－

天理市乙木町における梅田の感覚的観測データです。○=晴れ。△＝曇り。×＝雨。○/×=晴のち雨。○|×=晴時々雨。△:×=曇り一時雨。　**5月**26△/×、27○、28○、29○、30○|△、31×/△。6月1△、2○、3○、4○、5○、6△、7○、8○、9○、10△/×、11×、12×|△、13×、14△|×、15○、16○、17○、18×、19×/△、20△、21△/○、22○、23○、24○、25△/×。

綿は順調に生長しています。ただ一部にアブラムシが発生したため、早めの対策として6月7日に1回目の農薬散布を行いました。また、6月9日から支柱を立てはじめ、1号、5号、6号、7号、8号のすべての綿木に支柱を立て、誘引が完了したのは20日。なお、早くも蝶、苞、すなわち蕾がつきはじめています。

写真左：1号畑の和綿、草丈53cm。中：7号畑の和綿の蝶。右:1号畑の洋綿、草丈45cm。撮影日はいずれも6月22日。



《紅花と藍の栽培記録 2020》－ 令和2年度版　その3 －

紅花の花が咲き始めました。8号畑で初めて開花を確認したのは6月17日。5号畑では20日です。その後次々と咲き続けています。**写真は左から3枚は8号畑。6月17日。右端の1枚は5号畑。6月20日。**

【綿の加工の作業記録】　（梅田１人の作業量）

・糸車を用いての糸紡ぎ量　（和綿：平成30年,2018年産。丹羽正行氏による打ち綿）
　5月24日～6月23日（作業実日数18日）　糸の総量98.9ｇ（26.4匁）　総時間287分（4時間47分）
　　※1分間≒0.345ｇ　1時間≒20.7g（5.5匁）

【研修等の記録】

・令和2年05月26日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:実習。軟弱野菜、小松菜の播種。
・令和2年06月01日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にて筬通し。
・令和2年06月02日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:実習。栽培野菜の側枝摘み、追肥と農薬散布。
・令和2年06月05日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にて筬通し、織り付け。
・令和2年06月06日「和泉茜の里」(大阪府泉北郡忠岡町)を訪問、杉本一郎氏より日本茜の苗を購入。
・令和2年06月07日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にて機織り。
・令和2年06月08日「NAFIC」(桜井市)午前。農業機械安全使用研修受講。小型トラクターの管理。
・令和2年06月08日「NAFIC」(桜井市)午後。短期農業研修:講義。野菜栽培Ⅰ、土壌肥料Ⅰ。
・令和2年06月09日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:実習。栽培野菜の管理、収穫。小松菜の第2回播種。
・令和2年06月14日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にて機織り。大和機細工。
・令和2年06月15日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:講義。病害虫防除Ⅰ、環境保全型農業Ⅰ。
・令和2年06月16日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:実習。栽培野菜の管理、収穫。防鳥網の設置作業。
・令和2年06月21日「岸和田茜街道散策ツアー」(大阪府岸和田市)に参加。講師は杉本一郎氏。
・令和2年06月22日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:講義。鳥獣害対策Ⅰ、農薬安全使用Ⅰ。
・令和2年06月23日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:実習。栽培野菜の管理、収穫。堆肥のつくり方。